

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1751380245		
法人名	医療法人 仁智会		
事業所名	グループホーム つばき・れんげ		
所在地	野々市市連花寺町1番地1号		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和4年2月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な雰囲気の中で生活が出来るように職員と一緒に洗濯物を畳んだり、自分のお部屋の掃除をされたり、グループホーム内のベランダで野菜や花等を育て、天気の良い日は水撒きや草取りをされています。野菜等の育て方や収穫の時期等も職員に教えて下さいます。一緒に収穫した野菜は料理やおやつで楽しんでいます。夏はベランダでバーベキューをしたり天気の良い日は食堂で壁に掲示する季節にあったものを職員と一緒に工作に取り組みられています。また、併設しているクリニックによる訪問診察や訪問看護により体調管理や緊急時の対応を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

コロナウイルス感染症の拡大のため、外出や地域との交流は困難になっている。感染の状況を見ながらドライブに出かけたりしているが、施設内の行事が中心となっている。利用者は1階にある売店へ買い物に出かけたり、日曜にはデイがお休みなのでそのスペースを利用したり、天気の良い日には敷地の中を散歩している。週2回は「お楽しみメニュー」として、夕食は少し豪華にして、利用者には好評な物を提供している。6月には4階のベランダで、バーベキューで楽しみ、この他にも鉄板焼きを楽しんでいる。11月には、近くのラーメン店のラーメンをテイクアウトしている。感染状況が改善すれば、店主に来所してもらいその場でできたラーメンを提供してもらうことも考えている。その他、クリスマスパーティーとしてケーキを楽しんだり、たこ焼パーティーなど手作りおやつなどで食事を楽しんでいる。9月には「秋のデザートティータイム」として、ベランダで作ったサツマイモを収穫し、スイートポテトや大学芋などで楽しんでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ渦の為、朝礼で理念を唱和する事は控えている。グループホームの事務所の目に入る所に運営理念を掲げている。新人職員には運営理念について法人全体研修を行っている。	法人全体の理念は「かけがえのない命を守る医療」「人間としての尊厳を守る介護」となっている。入職時には法人として理念について研修を行っている。グループホームではこの理念に加え毎年目標を定めてより良いケアができるように取り組んでいる。管理者は毎月のミーティングや日々の申し送り等を通してその実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の為、運営推進会議は12月4日のみ。施設行事も行なっていない。2ヶ月に1回奇数月に市町村・地域の方々に活動・現状報告・お便りを郵送している。	コロナウイルス感染症の拡大のため外出や地域との交流は困難になっている。感染の状況を見ながらドライブに出かけたりしているが、施設内の行事が中心となっている。利用者は1階にある売店で買い物に出かけたり、日曜にはデイがお休みなのでそのスペースを利用したり、天気の良い日には敷地の中を散歩している。訪問理容サービスを受けたり、お弁当、ラーメンの出前を楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・民生委員や地域包括センターの方々から頂いた情報やご意見などを活かせるように取り組んでいる。	コロナ感染拡大のため今年度は12月に1回対面方式での会議を開催している。市の職員、地域包括、民生委員、家族が参加している。会議では利用者の状況、活動報告、訓練のこと、実習生、面会について等報告・討議している。この他は、書面による開催として議事録を関係者へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な情報やアドバイスを頂き、現場に活かせるように取り組んでいる。	グループホーム便りが出来た時には野々市市や地域包括に送付して事業所の取り組みを伝えている。市の職員より「コロナ感染下でも工夫してグループホームとして独自に地域に開かれた活動をして下さい」という指導を受けてアルツハイマーの日に向けて野々市市内のグループホーム間での作品展を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルに基づき、ミーティングや申し送りの場、普段の会話で情報や問題を共有しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。建物4階にあり出入口は施錠をしている。	指針を整備して、研修は法人全体で年に2回実施している。身体拘束廃止のための適正化委員会は毎月開催している。センサー利用者は2名いるがその使用について継続的に検討を行っている。また、ヒヤリハットの事例を分析して、事故の再発・防止だけでなく不適切なケアになっていないかも検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者の方への対応について何か悩んでいる事・困っている事がないか個人的に聞いたり、共有の問題としてミーティング等で課題に上げ話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者と連絡・連携をとり、対応出来るように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、説明を行い理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートや運営推進会議の場で提案や意見をお聞きし、その内容を反映出来るように心がけている。	コロナの感染状況を見ながら、面会を中止したり、限定的に面会をしたりを繰り返し行っている。そのため今までのように家族とゆっくり話すことはできないが電話を頻回にしたり、物品を持ってきてもらう時によく意見を聞くように心がけている。意見箱の設置や苦情の体制は整備されているが特に意見や苦情は寄せられていない。年に2回家族アンケートを実施して家族の意見を聴き取り改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場で職員が意見や提案等を気軽に話せるように、また必要な事が反映出来るように努めている。	法人として、過去に実施していたISOの流れを活用して、年に2回ひとり一人の職員意見を聴き、改善に繋げている。管理者は自らもシフト勤務に入っており日々の業務の中で職員と接し意見や提案を受け取っている。また、フロアミーティングや申し送りの場においても職員からの意見に耳を傾けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から悩んでいる事や困っている事等がないか聞き、自らも言えるような関係性を作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、以前よりは研修を行っていないが感染対策を行った上で少しずつ内部研修を開始している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、行えておらず。以前は他の施設の交流や勉強会の取り組みを行っていた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族のお話を聞いたうえで、安心して生活が出来るような関係・環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをお聞きし、安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、他サービスの利用にも応じられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が興味のある事や出来る事を継続していけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はパーティション越しの対面での面会可で感染防止対策を図り、面会を支援している。感染状況を見てWEB面会に切り替えたりし、ご家族等と会えるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ渦の為 あまり外出は出来ていないが感染状況を見て少しずつつづっている。	家族との面会がコロナのため制限されている。そんな中でも、オンラインでの面会や、感染状態を見ながら1階の部屋を利用して対面できるようにしている。また天気の良い日には敷地内を散歩したり、ドライブに出かけたりしている。馴染みの人や場との関係を継続することは困難な状況となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット同士の行き来で交流の場を設けたり、レクリエーションを行い楽しい時間を一緒に過ごせるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様子を伺いながらお声かけたり、必要なときは支援出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からお話を聞くとともに、職員間で情報を共有・交換しながら把握出来るように努めている。	認知症の方で言葉によるコミュニケーションが難しい方には普段の関わりの中で思いをくみ取るように心がけている。職員から話しかけたり、問いかけたりしたときのちょっとした反応や何気ない言葉に注意して支援している。またひとり一人のしぐさや行動の特徴などにも注意して思いをくみ取るようにしている。例えばある利用者が午前中頻りに職員を呼ぶ時には排便のサインを出していることと理解し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネジャー、以前に利用していた他サービスの職員等から可能な限り聞き把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、少しでも情報が把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスで本人とご家族の思いを聞き、医師や看護師など他職種と連携しその内容を活かした介護計画の作成に努めている。	利用者の担当職員がアセスメントして計画作成担当者に伝え原案を作成してサービス担当者会議を開催している。でき上がったプランはカルテの裏に綴じこんで回覧し周知している。モニタリング評価は半年ごとに実施して計画もその都度見直し更新している。記録は介護経過記録とバイタル・サービス提供等の記録がある。介護記録にはケアプラン2表の番号を記して記録し計画との整合性を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録内容やミーティングでの話し合いから得た情報をケアに活かせるような介護計画画覚醒に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の他職種と連携をとり、柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ対策の為 近隣への外出や地域の集いに参加出来ておらず。以前は行っており支援を行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックの医者やかかりつけ医の訪問診察を行い、必要な時に他医療機関に受診が出来るようにご家族と連絡を取りながら支援に努めている。	主治医はほとんどが同一法人のクリニックとなっていて往診してくれるので、職員は直接医師から指示を受けたり利用者の様子を伝えている。往診は月に2回その他、訪問看護も毎週訪れてくれ医療との連携体制は整っている。また老人保健施設が併設されているので夜間急な体調の変化等があった場合には当直の看護師に連絡して指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護に加え、体調の変化が見られた時は連絡して指示を受けるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設しているクリニックと情報交換をしている。その情報を元にご家族に連絡をして退院にむけて相談が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今出来る事・出来ない事、そして今後についてご家族と話し合い、可能な限り支援に努めている。	重度化の対応の例として、風呂が一般浴のためバールンを使用している人や立位が不安定な方は同一敷地内のデイケアの機械浴を利用して入浴を行い、グループホームでの生活ができるよう支援している。訪問診療、訪問看護、老人保健施設が併設されている等、医療との連携体制はできている。今までは看取りのケースは併設の老人保健施設への移動で対応していたが、併設のクリニックが廃止となったため、グループホーム独自の看取りについて検討を始めたところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED取扱いを学び、併設クリニックから救急対応について説明を受けている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	併設クリニックとの連携、緊急時の連絡網があり、何かあればすぐ対応することとなっている。	「事故報告書」のファイルがあり、令和3年度は10件の報告書が作成され、また「ひやりはつと報告書」のファイルには、21件の報告がされている。報告書を作成し、原因を明確にし、対応策を検討することで事故防止に努めている。そして、年に1度「介護医療事故研修」を実施し、「教育訓練記録」が作成されている。前年度は誤薬防止に関する研修、今年度は食中毒防止など食品衛生管理について研修が実施されている。そして、「リスクマネジメントマニュアル(南)」等のマニュアルが作成され、緊急時には併設のクリニックや老人保健センターと密に連携している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	併設のクリニックと介護老人保健施設と支援体制が出来ている。	協力医療機関は金沢南クリニックであり、ほとんどの利用者の主治医であり、2週間に1度往診に来てくれている。利用者2名は外部の医療機関を主治医にしており、それぞれの主治医とは必要な連携を取っている。歯科は、必要な時に依頼すれば往診してくれ、現在定期的に往診してもらっている方もいる。バックアップ施設は南ケアセンターである。金沢南クリニックと南ケアセンターとは、緊急時の対応、ワクチン接種や予防接種など、密に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	2ユニットに2名の夜勤者がおり、緊急時などは併設施設の応援も可能である。	2ユニットで、2人夜勤体制である。19時から翌朝8時45分までが、夜勤者2人のみの勤務である。但し、夜間帯に利用者の状態の変化があった場合は、南ケアセンターの宿直看護師に連絡したり、防災センターの宿直者へ連絡し、対応してもらったりしている。この1年で、夜間帯に救急車を呼んだことはないが、医師の指示があれば救急対応となり、家族が救急車に同乗出来ない場合は職員が同乗する。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。災害について地域との体制は出来ていない。	6月23日に夜間想定 of 防災訓練、11月17日は洪水を想定した訓練が実施されている。2回の防災訓練は、南ケアセンター全体として実施されている。訓練の前には、訓練の周知文書が回覧されている。訓練後には、訓練実施報告書が作成され、自主防災設備点検を実施している。この他、年2回消防設備点検業者による点検も実施されている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	食料・飲料水の備蓄があり、リストで賞味期限を見ながら入れ替えている。	「リスクマネジメントマニュアル(南)」というファイルに、「洪水時の避難確保計画」や「地震時のマニュアル」があり、また「消防計画・立ち入り検査届出資料」というファイルに「防災マニュアル」が綴られている。防災関係マニュアルが整備され、訓練等を通して職員へ周知されている。また、「備蓄計画」が作成され、実際の飲食料品の消費期限を表にして管理している。この他、カセットコンロ、使い捨て容器、プラスチックスプーン、割り箸等必要な物品を備蓄している。物品等については併設する南ケアセンターからの支援も得ることができる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや申し送りの場で個人の現状や対応について話し合い、情報を共有してケアしていけるように努めている。	日々の生活状況や健康状態は、「生活介護記録」に記録し、ミーティングや申し送りの場で話し合い情報を共有した上で、一人ひとりの人格や誇りを尊重したケアを心がけている。そのため、好きなこと、嫌いなこと、やりたいこと、面倒なことなどを理解し、思いを受け止め、その時の思いに沿えるよう職員間で話し合っている。プライバシーを守るため、排泄に関すること等の話をする時は、他の利用者には分からないように対応している。また、入浴や排泄などの介助の場合は、羞恥心に配慮している。利用者の1人は、男性介護者だと拒否しないため、その方には基本男性介護者を当てるなど、個々の気持ちを尊重するよう配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな事・嫌いな事・やりたいこと・面倒な事などを理解し、思いを受け止められるように努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律な対応ではなく、その時の思いに添えるよう、職員間で話し合い支援出来るように努めている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が必要とされる物についてはご家族に連絡を取り、持ってきて頂いている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの菜園にて一緒に野菜を収穫したり、おやつを作ったりする事を心がけている。	献立を考える専門の職員がいて、その献立に合わせて買い物に行っている。献立は、旬の物や好評だったものなど、利用者に希望を聞き作成している。また、週2回は「お楽しみメニュー」として、夕食は少し豪華にして、利用者に好評な物を提供している。6月には4階のベランダで、バーベキューで楽しみ、この他にも鉄板焼きをして楽しんでいる。11月には、近くのラーメン店のラーメンをテイクアウトしている。感染状況が改善すれば、店主に来所してもらいその場でできたラーメンを提供してもらうことも考えている。この他、クリスマスパーティーとしてケーキを楽しんだり、たこ焼パーティーなど手作りおやつなどで食事を楽しんでいる。9月には「秋のデザートティータイム」として、ベランダで作ったサツマイモを収穫し、スイートポテトや大学芋などで楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や咀嚼能力、水分摂取量を考えて、過不足が出ないように努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士からのアドバイスを活かし、個々の状態にあったケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に応じたケアが出来るように話し合い、検討しながら支援に努めている。	「排泄チェック表」があり、利用者全員を対象に排尿・排便のチェックを行っている。排泄状況を確認することで、タイミング良い声かけを行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。排泄の自立支援として心がけていることは、排泄動作が遅かったり、ゆっくりしている方に対して、可能な限り見守り、自分で行ってもらうように支援している。過剰な介護にならないことを心がけている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、可能な方には毎日ヨーグルト食べて頂いている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴してもらえるように、体調や気分を優先し、声掛けや準備にも気をつけて支援している。	入浴は、週2回を基本に支援している。本人の体調や気分を大切に、その人が入浴したくなるような声かけをするよう配慮している。浴室は各ユニットに1か所設置されているが、一般の個浴である。そのため、車いすなど浴槽の跨ぎのできない方については、2名の方が併設のデイサービスの機械浴を利用し、1名の方がデイの大きなお風呂を利用している。特に身体的な配慮が必要でなければ、その人の湯加減で、その人のペースに合わせて、本人が「あがる」と言うまで入浴してもらっている。また、お風呂上りには、ドライヤーをかけながら、ジュースを飲み、職員と会話して気分良くなってもらうよう支援している。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝たい時、休みたい時に休息出来るよう、また必要な寝具は家族と連絡をとりながら支援に努めている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容が変更になった時は申し送りで周知出来るように、また状況に変化があった時はすぐ主治医に連絡出来るように努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人からの話やご家族から得た情報をもとに、自分らしく楽しみを持ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ渦の為 あまり外出は出来ていないが感染状況を見て少しずつ行っている。	鶴来方面へ4月9日には花見ドライブへ行き実習生も一緒に出かけ、皆さん孫のようにかわいがっていた。11月11日にも鶴来方面へ紅葉を見に出かけ、銀杏のきれいな景色を眺め、たい焼きを食べて楽しんだ。日々天気の良い日は、南ヶアセンターの敷地内を散歩している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、コロナ対策の為 お金を使えるよう支援を行っていない。以前は買い物や自動販売機などでご自分が払えるように支援を行っていた。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば出来る限り支援していく。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を掲示したり、季節に応じた飾り物を見て心地よく過ごしてもらえるように工夫している。	多くの方は、日中はリビングで過ごしている。そのため、午前と午後に環境整備の時間があり、清掃や換気を行い、清潔を保っている。ゲームをしたり、洗濯物をたたんだり、パズルをしたり、チラシを見たり、テレビやDVDを見たりなど、皆で一緒に同じことをして過ごすことが多い。そのため、利用者の相性を考え、席に配慮したり、トラブルにならないように配慮している。また、リビングなどの掲示物は、正月飾りやスノードーム、雛飾りなど、自分たちで作ったりもして、月に1回程度季節の飾りつけを楽しんでいる。そして、食堂や廊下には長椅子を置き、各ユニット間の交流やちょっと疲れた時に座っている。皆さん頻繁に利用し、よく話している。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・廊下に長椅子をおき、散歩の途中や疲れた時などに誰でも座れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前やトイレなどに分かりやすく名前が貼っており、迷わず生活できるように努めている。	各居室には、洗面台があり整容は居室で行っている。この他、小さなテーブル、椅子、タンス、エアコンが取り付けられている。馴染みのも物として、ガラスのテーブルやドライフラワー、収納ケース、テレビやCDなどを持ち込んでいる方もいる。毎朝9時ごろに掃除の時間があり、自分で掃除する方もいるが、職員は見守りながら不十分の所や本人ができない所の掃除をし、居室の清潔を保持している。また、転倒の危険のある方には、安全な動線の確保のため、家具の配置を工夫している。居室は本人のための空間であるので、自分の部屋だとわかってもらえるように、本人の作品を置いたり、掲示したり、家族や本人の写真をたくさん貼ったり、本人が居心地が良いと思えるような環境整備を心がけている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前やトイレなどに分かりやすく名前が貼っており、迷わず生活できるように努めている。		